

もっと本が  
読みたくなる

▼先生からのおすすめの本。紹介文には、「先生も主人公と同じように…」「この本は、小学校高学年のころに読みました」など、先生自身の本にまつわるエピソードなども書かれています。子どもたちにとっては、とても興味深い紹介文です。(川越市立南古谷小学校)



▲国語の授業(「広がる、つながる、わたしたちの読書」)で、5年生がポップを作成。完成したポップを、図書館入口の廊下に掲示。多くの子どもがこれを見て本を借りたそうです。(駒ヶ根市立赤穂南小学校)



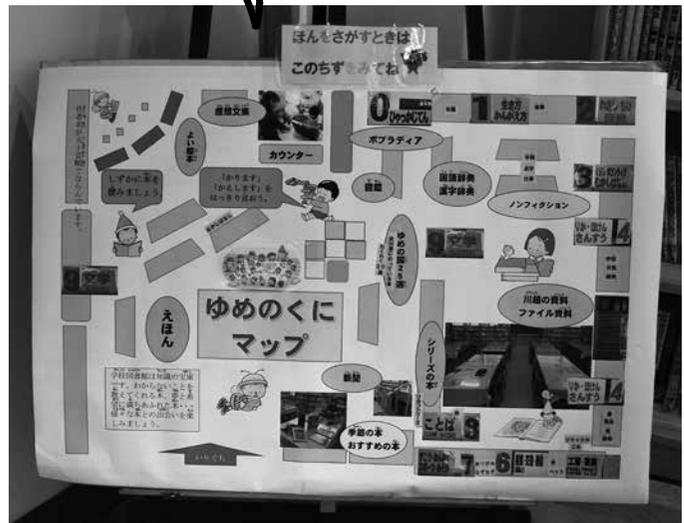
▲読書の質を高めることをねらいとした「緑野文庫」。低中高学年の枠で幅をもたせて選書。それをさらに初級・中級・上級のスムーズステップに分け、子どもが選書しやすいようにしています。また、「ただページをめくっているだけ」にならないよう、例えば低学年は、読後にクイズを実施。クイズに答えられるように読むことで、確かな読解力が身につきます。(狛江市立緑野小学校)

▶課題図書の別置コーナー。ノンフィクションの読み方を指導するために、各学年、課題図書を設定しています。右の写真は、5年の課題図書『森は生きている』(富山和子 著)の別置コーナーです。内容理解の助けとなるよう、本に登場する、現代の子どもにはなじみのない道具を実物で展示しています。(狛江市立緑野小学校)



図書館が  
使いやすくなる

▼図書館の入り口に、館内マップ(「ゆめのくに」は図書館の愛称)を掲示。NDCの分類を基準としながら、特に子どもたちが手に取る本や、調べ学習に必要な本は目立つように表示されています。(川越市立南古谷小学校)



子どもたちが使いたくなる、使いたくなる図書館にするための、さまざまな工夫をご紹介します。

学校図書館の  
工夫いろいろ

図書館に  
居たくなる



▼読み聞かせコーナー。使用するときには、カーテンを引いて書架を隠します。そうすることで、余計な情報が目に入らず、読み聞かせに集中できる環境になります。また、段差があることで、どの場所に座っても本がよく見えるようになっています。新校舎建築の際、視察や検討を重ね、このようなつくりにしたそうです。(狛江市立緑野小学校)



▲書架の間には小さなベンチが設置されています。ちょっと本の内容を確認したいときなどにちょこっと座れる居心地のよい場所です。(川越市立南古谷小学校)

